

「デジラボおきなわ未来のIT人財創造プログラム」

PLAZMA Inc.

株式会社プラズマ



所在地 ● 〒901-0612 南城市玉城富里 117 TEL ● 050-5534-0519 MAIL ● info@plazma.co.jp

事業目的

IT、プログラミング等に触れる機会や興味関心の少ない子どもや保護者層に、その面白さや将来に向けた重要性への理解を促し、これからの時代に必要な学びや社会協働についての意識啓発の機会提供を行う。

「デジラボおきなわ」とは

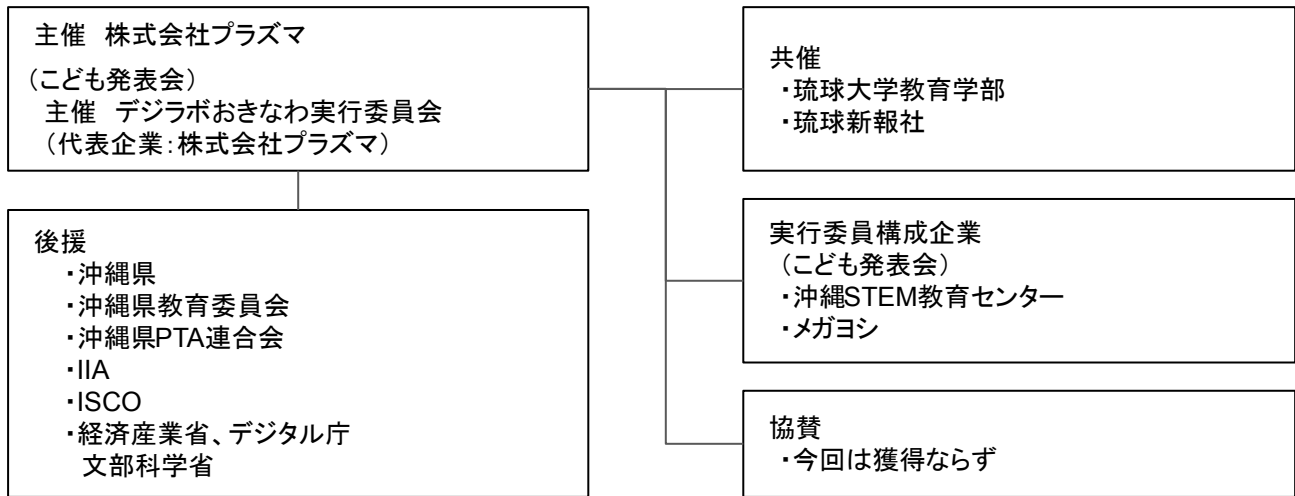
2012年から継続的に取り組んでいる、子どもたちの創造性を伸ばし、表現や学びの機会を創出する活動。県内外、国内外の学校教員、企業、研究者がそれぞれの所属の垣根を越えた連携により、沖縄の強みであるチャンプルー文化／ダイバーシティ溢れる取り組みである。

事業内容

- ① 子どもIT・プログラミング体験教室
オンラインや実地対面にてプログラミングの楽しさを体験するワークショップを提供する。
- ② 子どもたちの創造活動成果報告会
学んだプログラミングの作品やアイデアを子どもたちが発表を行う。
- ③ 未来のIT人財創造シンポジウム
プログラミングやテクノロジーの学びを提供するプロフェッショナルや学び手である学生が、その取組の成果やこれからの時代に必要な学びの環境についてディスカッションを行う。
- ④ IT人財育成映像コンテンツ配信
IT人財育成やSTEM／STEAM及び探究学習の指導者によるプレゼンテーションなど多数を配信。



実施体制



事業成果

プログラム名	当初目標 実施回数	実績 実施回数	当初目標 参加人数	実績 参加人数
① 子どもIT・プログラミング体験教室 (教員研修を含む)	15回	9回	200人	77人
② 子どもたちの創造活動成果報告会	1回	1回	150人	10人
③ 未来のIT人財創造シンポジウム	1回	1回	150人	38人
④ IT人財育成映像コンテンツ配信	1式	1式	300人	182人
合計	17回	11回	800人	307人
			目標達成度	38.4%

課題	成果
事業性	受験に役立つ学力向上に係る家庭支出が優先されるなか、プログラミングやITスキル習得のための支出は家庭の経済力に大きく依存しており、特に本県の場合はその傾向が非常に顕著である。弊社としてはできるだけ多くの子どもたちに体験と気づきの機会を提供したいという思いを持って取り組んでいる。協賛企業については、これまで協賛して下さった企業自体が児童向けプログラミング塾事業を始めたと等の理由で厳しい状況となり想定通りの協賛確保ができなかった。
集客	児童や教員個々への体験教室や研修実施については、琉球大学教育学部、県立総合教育センターの指導主事、自治体や教育委員会、学校教員、保護者組織、IT業界団体による協力があり、一定の成果を挙げることができた。しかし、学校への出前授業の講師派遣については、県PTA連合や本事業で実施した体験教室に自分の子どもを参加させた意識の高い保護者等から、学校へ直接声掛けをしてもらうなど多面的にアプローチをしたが、学校現場との日程調整およびニーズのミスマッチにより、実施回数が計画を下回った。こども発表会は当初、那覇市会場での開催について琉球新報紙面にて事前告知及び集客を行っていたがインフルエンザ罹患した児童への配慮でオンライン開催となり、関係者のみでの開催となったため参加者人数が減った。
事業効率化	ワークショップ動画コンテンツの作成・提供を行い、事前に知識面でのインプットを促すことで、体験教室や研修当日の内容密度を高めることができた。

- 1 一部の経済的優位な家庭に偏ることなく、すべての子どもたちの創造性伸長に貢献
 - ・本年度に実施した機械学習やロボットプログラミングをはじめとした体験機会でも、少々難易度がある内容であっても子どもが十分に楽しめる体験プログラムを構築できた。今後も時代に合わせた子どもたちが楽しめる体験プログラムを開発したい。
 - ・単なる操作スキル習得のためだけとなるような体験プログラムとせず、子どもたちの純粋な「なぜ」や「面白い」という気持ちを引き出す働きかけを重視した内容を実施している。難しい内容であっても、子どもたちが自ら楽しみながら探求しようとする態度で参加してくれた。今後も子どもたちの主体的で深い学びを実現するために体験プログラムの充実を図っていく。
 - ・単なるプログラミング体験教室とならないよう、現代の社会やシゴトのエピソードを通して子どもたちに未来を予感させる働きかけを重視した。多くのテクノロジーの開発現場で何度も失敗と挑戦を繰り返す粘り強さに関するお話しが、子どもたちや大人たちにとっても深い共感を得られることが確認できた。今後も単なるスキル習得や表面的な啓発でなく、参加者の内面に働きかける取り組みを継続する。。
- 2 連携強化と事業性の向上
 - ・これまでの取り組みではなかった連携先として新規に追加となった協力組織として、沖縄県立総合教育センター技術科研究室と、沖縄県技術・家庭科研究会の連携の下、先生方にとっては出張扱いでの研修参加が実現できた。
 - ・これまで本事業に賛同いただいた多様な団体との協力関係をより深め、連携いただく組織団体を増やし取り組みをより発展させる必要がある。

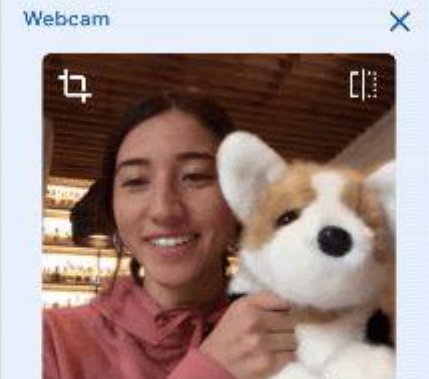
協力いただいた組織団体、個人

- ・共催 琉球大学教育学部、琉球新報社
 - ・後援 沖縄県教育委員会、沖縄県、沖縄県 PTA連合会、那覇市、座間味村教育委員会
一般社団法人沖縄県情報産業協会 IIA、沖縄ITイノベーション戦略センター ISCO
 - ・連携 共同通信社(全国新聞社事業協議会主催「全国選抜小学生プログラミング大会」)
 - ・協力者(審査員)
 - ・琉球大学教育学部 小野寺学部長
 - ・(一社) Nagano Tech Style Lab 土田理事
- (シンポジウム登壇)
- ・国立教育政策研究所教育課程 渡邊 調査官
 - ・信州大学教育学部 村松 浩幸 教授
 - ・文部科学省学校 DX戦略アドバイザー 平井 聡一郎 氏

全体行程

期日	内容	場所・方法	参加人数
9/26	プログラミング体験教室(教員研修)	琉球大学	20
10/11	プログラミング体験教室(こども)	オンライン	6
10/12	プログラミング体験教室(こども)	オンライン	4
10/18	プログラミング体験教室(こども)	オンライン	2
10/19	プログラミング体験教室(こども)	オンライン	3
12/5	プログラミング体験教室(教員研修)	沖縄県立総合教育センター	28
12/14	未来のテクノロジー人財創造シンポジウム	なは市民活動支援センター	38
1/18	プログラミング体験教室(こども)	オンライン	4
1/23	プログラミング体験教室(こども)	オンライン	2
1/25	デジラボおきなわ こどもIT・プログラミング発表会	オンライン	10
1/26	プログラミング体験教室(こども)	オンライン	4
2/26	プログラミング体験教室(教員研修)	オンライン	4
3/8	全国新聞社事業協議会主催 「全国選抜小学生プログラミング大会」引率	東京都品川	4

①体験教室



子どもIT・プログラミング体験教室

● 実施内容

・初心者向け「Scratch教室」「Scratch」で一緒にゲームを作ってプログラミングについて学ぼう！

・「画像解析 AI 教室」

人工知能「AI」と一緒に体験してみよう！

・その他要望に応じて柔軟に対応（マイクラ等）

● 対象

小学3年生～中学生

小学校低学年の児童は保護者同席であれば参加可能

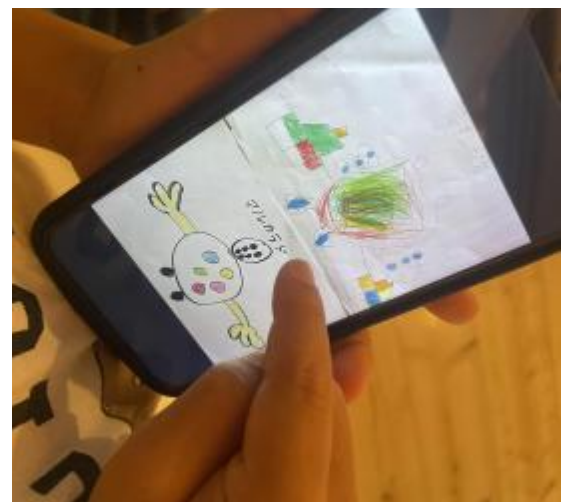
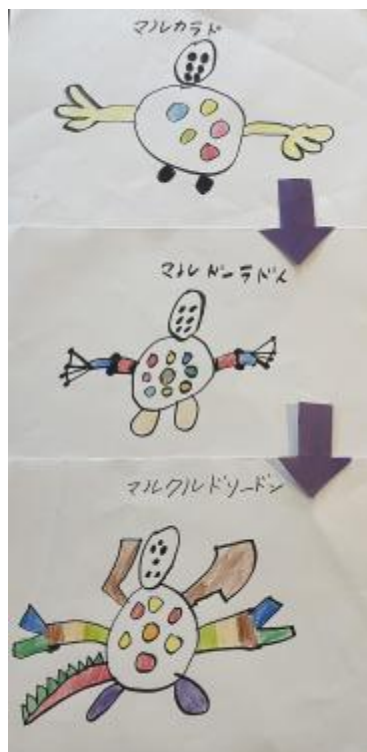
● 集客方法

SNS広告、PTA連合会からの一斉案内、後援団体のメルマガ

● 成果

前回同様に、ほんプログラムに参加した児童が子ども発表会でグランプリを受賞し、全国大会へ派遣となった。

スキルアップやIT啓発だけでなく、著作権侵害に関する理解促進を行うことができた。



当初はポケモンのキャラクターで作品作りをしていたが、オリジナルのモンスターを考案し、スマホに取り込んだ。

①体験教室



教員研修1

(琉球大学教育学部と共同実施)

研修日時 9月26日

実施場所 琉球大学教育学部

研修内容

(初級コース)

・スクラッチ活用研修

講師:小野寺先生/琉大教育学部

(発展コース)

・マイコンプログラミング活用研修

講師:飯塚/(株)プラズマ



教員研修2

(県立総合教育センター及び琉大教育学部と共同実施)

- 研修期日 12月5日
- 実施場所 理科棟2階 第6研修室
- 研修内容

I 演習

・マイクロビット活用演習(講師:新垣先生/琉大)

・Arduino活用演習(講師:飯塚/(株)プラズマ)

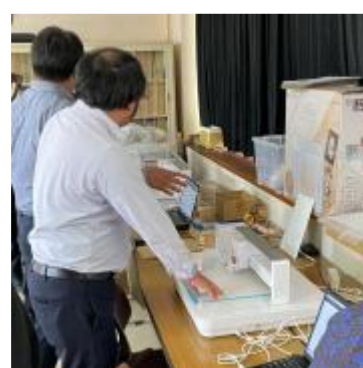
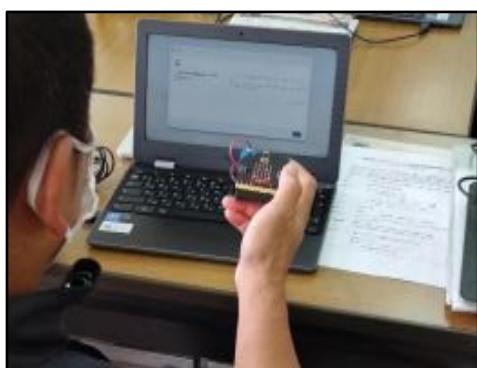
(マイコン機器の活用、計測・制御システムの考案)

II 演習

(TinkerCad設計シミュレーション、3Dプリンタ、カッティングマシン)

III 交流タイム16:00-

(困り感共有・アンケート)



② 子どもたちの創造活動成果報告会

イベント名称: デジラボおきなわ こどもIT・プログラミング発表会

全国新聞社事業協議会主催

「全国選抜小学生プログラミング大会」沖縄地区代表選考会)

1. テーマ「みんなの未来、みんなでつくろう」
2. 応募資格 沖縄在住または沖縄の小学校に所属する児童
3. 大会日時（開催期日変更）

変更理由: 参加児童のインフルエンザ罹患への配慮

・当初予定 2025年12月14日

・変更期日 2026年1月25日

4. 全国大会派遣

3月に東京品川で行われる全国大会への派遣が決定

〈グランプリ(最優秀賞)〉所属学校: 南城市立玉城小学校の

チーム名: 「ときとよういちろうチーム」大城 時 くん、井上 耀一朗 くん

作品名 : 「ぼくががんばるとぼくのモンスターも進化する！」

5. 参加スタイル 個人、団体ともに可。団体の場合は1チーム4人まで
6. 概要(全国大会選抜地方大会のため全国大会の実施要項に準ずる)

事前収録したプログラミングを用いた作品やアイデア等に関するプレゼンテーションのビデオを会場で視聴し、審査員との質疑応答でがんばったところ、苦労したことなどを発表者が説明補足する。

プレゼンテーションのビデオは、テーマに対して、独自の発想に基づいて制作した、アプリ、映像、ロボット、ドローンについて家庭で撮影する。動画の時間は3分間。作品制作のきっかけや思い、特徴、苦労した部分などについてプレゼンテーションを映像に収録する。

- ・プログラミング言語や環境について指定なし。
- ・作品の出来ではなく、開発への思いやプレゼンテーション力を重視する。
- ・単なるアイデアも発表可能。
- ・他者の著作権を侵害しない作品であること。(ただし、実際の作品を提出した方が技術点は加点される。)応募数が多い場合は、主催者によって構成される実行委員会にて事前審査し登壇者を決定することがある。

7. 審査(全国大会出場を前提とした地方大会のため全国大会の審査方法に準ずる)

・評価方法: **技術力よりも発想力、表現力を重視**する。ただし、実際の作品を提出した方が技術点は加点される。プログラミングのソースコードの優劣や、ブロック言語等による高度な技術を厳密に評価することは想定していない。
作品の目的、社会課題などの解決に関することは加点のポイントとなる。

② 子どもたちの創造活動成果報告会

発表者のみなさん



ひなさん



しゅりさん



かずきさん



ときよういちろうチーム



じゅりおんさん

審査員のみなさん



琉球大学教育学部 小野寺学部長



(一社) Nagano Tech Style Lab 土田理事

発表の題名と表彰結果

対象	表彰	発表者
グランプリ	最優秀賞 全国大会へ招待	ときよういちろうチーム
準グランプリ	準優勝	かずきさん
イノベーション特別賞	優秀賞	じゅりおんさん
アイデア賞	優秀賞	ひなさん
アイデア賞	優秀賞	しゅりさん

② 子どもたちの創造活動成果報告会



全国大会(東京都品川へ引率)



「みんなの未来賞」を受賞しました。

全国各都道府県から選抜された児童たちが参加

紙面露出

令和8年(2026年)1月31日 (土曜日) 琉球新報 朝刊

ニュースフラッシュ

■大城、井上さんプログラミング全国大会へ デジラボおきなわ実行委員会(代表企業・プラズマ)は25日、小学生を対象にプログラミングを用いた作品やアイデアなどを競う「デジラボおきなわ こどもIT・プログラミング発表会」(琉球大学教育学部、琉球新報社共催)をオンラインで開催した。
「みんなの未来、みんなでつ

くろろ」をテーマに、小学生5組6人が発表。グランプリには、玉城小1年の大城時さんと同小2年の井上耀一朗さんのチームが発表した「ぼくががんばるとぼくのモンスターも進化する!」が選ばれた。
大城さんと井上さんは、3月8日に東京都で開かれる「全国選抜小学生プログラミング大会」(全国新聞社事業協議会主催)に県代表として出場する。

令和8年(2026年)3月9日 (月曜日) 琉球新報 朝刊

独自の発想で制作したアプリやゲーム、装置などの出来栄を競う「全国選抜小学生プログラミング大会」の2025年度大会が8日、品川インターシティホール(東京都)で開かれた。グランプリの文部科学大臣賞に岡山県代表の岡山市立江西小6年の山下桃子さんが選ばれた。沖縄県代表は、玉城小1年の大城時さんと同2年の井上耀一朗さんで、作品「ぼくががんばるとぼくのモンスターも進化する!」が「みんなの未来」に



全国選抜小学生プログラミング大会に出場した県代表の(左から)大城時さんと井上耀一朗さん。8日、東京都

「未来」に大城、井上さん小学生プログラミング大会で選ばれた。山下さんは「季節の音」を検知し文字で通知する装置を開発。ろろ香と季節感を共有できればとの思いを込めており、「共感で壁を越えたい」と話した。
審査員長の平井聡一郎・未来教育デザイン代表社員は「デジタルとアナログの両方の良さを生かしたもので、日本の進むべき姿と重なる素晴らしい作品だ」と評価した。大会は6回目、共同通信社と加賀新聞社でつ

くる全国新聞社事業協議会が主催。

③ 未来のIT人財創造シンポジウム



未来のIT人財創造シンポジウム

- 期日 2024年 12月 14日(日)
- 会場 那覇市民活動支援センター
- 対象 教育関係者、一般

1. 基調講演(キーノート)

- 講師

国立教育政策研究所 教育課程調査官 渡邊 茂一 先生

〈演題〉これからのテクノロジーの学び

平成13年神奈川県相模原市の技術・家庭科技術分野担当の教員として着任、平成26年より相模原市教育委員会教育センター指導主事、令和4年より現職

信州大学教育学部 村松 浩幸 教授

〈演題〉オモシロイを形にAI時代のSTEAMの学び

技術教育学を専門として、「オモシロイを形に」をキャッチに、FabLab長野や中学校技術系部活支援(一社)Nagano Tech Style Labなども運営。

文部科学省学校 DX戦略アドバイザー 平井 聡一郎 氏

〈演題〉次期学習指導要領に向けて、

今、教育リーダーが知るべき学びのデザイン

情報通信総合研究所特別研究員、文部科学省学校DX戦略アドバイザー、総務省地域情報化アドバイザー、青森県教育改革有識者会議委員、他 多数



2. パネルディスカッション

- テーマ「これからの時代の学びと体験」
- 概要

政府の教育行政のキーパーソン、大学教授、行政と連携し人材育成に関わる指導者によるパネルディスカッション。学校で教師の負担軽減が叫ばれる今、学校や地域が協働・連携してこれからの時代の子どもたちの学びをどのように支え充実させていくか。AI時代にIT分野だけでなく、適切な人間本来の多様なチカラを身に付けさせるためにどのような体験が求められるのか。子どもたち、学生たちは何を求めているのか。実践事例紹介やディスカッションをもとに考えを深める機会とした。

④ IT人財育成映像コンテンツ配信

1. 視聴期間 制限なし
2. 対 象 学校教職員や教育行政職員など
3. 視聴方法 オンライン・オンデマンド
4. 内 容 IT人財育成やSTEM／STEAM及び探究学習の指導者による

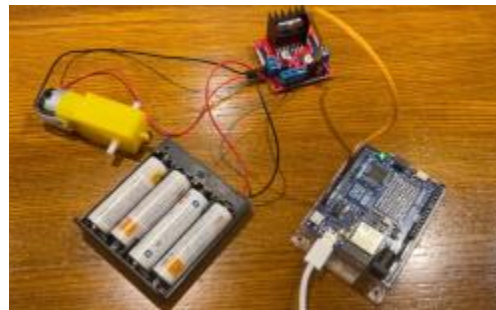
プレゼンテーションなど多数を配信。

自社サービス「[CareerSpace.jp](https://career-space.jp)」を活用。

※ 昨年までのキーノート形式に加え、今年度より要望が多く寄せられた、電子工作ノウハウのコンテンツを追加した。

追加コンテンツ:各種センサーの回路接続とコーディング、動作概要

ブレッドボードとLED、人感センサー、距離センサー、温湿度センサー、モイスチャーセンサー、モータードライバーとDCモーター、スイッチングリレー、照度センサー、カラーセンサー、ジャイロセンサー、センサーカー
(以下は一部抜粋)



教員研修について(自由記入・抜粋)

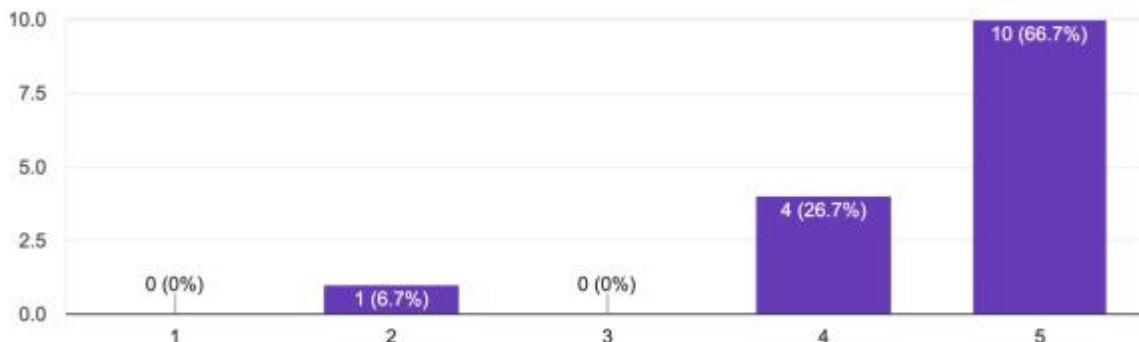
- ・BlocklyArduinoからArduino CloudやArduino Uno R4 WiFiについて知ることができました。ベースとなるプログラムを生徒に提供しその改良を行うという視点が勉強になりました。
- ・どのようにこの教材をパッケージしていくかを考えていけないといけない。3Dプリンタやカッティングマシンを使ってとても良い経験になった。実際に体験もできて良かった。困り感ではないのですが、授業になにを求めていくのかを早めに知りたい。また、それに必要な能力を身に着けたい。
- ・自分自身の研修への準備がたりなかったので反省をしたい。
- ・新しい情報などお互い共通理解ができた場面が多くあり自分自身の学びにつながりました。新しい情報や教材などしっかりと自分なりに勉強していきたいと感じました。学校によっては予算の面でしっかりと準備しないといけないと感じたので、次年度に向けて管理職、委員会と早めに調整していきたいと思いました。
- ・小学校や工業高校の先生方の話も聞いたことで、他校種と中学校の技術との繋がりについて考えることができたことはとても良かった。学校業務のためなかなか研修に出られない先生も多いと思う。気軽に参加できる場があれば良いと思う。
- ・研修においてはやはり時間的な制約があって、オフィシャルな形での研修会になってしまう。座談会・合宿的(デジラボ体験教室)的な研修もほしい。自治体によってGIGAの整備状況が変わってしまっている。現場から声を発する方法や、統括する行政や文科省から指示書がついた予算配分が必要では。例としては理科振興費のような形。素晴らしい研修会でした。ありがとうございました。
- ・今回は実際に触ったことないものばかりで学ぶことが多く、勉強になりました。実際に学校現場で使用する際に、自身体との調整が必要そうなので、他の学校の事例を聞いたので良かったです。
- ・たくさんの事例や体験ができたことが、有意義な研修となりました。夏休みでもっと時間があれば実習できたので可能でありましたら、計画の方よろしく願い致します。情報、ものづくりの基礎基本ということで自分なりに解釈して授業を作っている状況。なるべく現代の課題に注目して将来に役立つ教材、問いを選ぶようにしています。



体験教室(教員研修)

きょうの研修の満足度を「良かった・・・5」「良くなかった・・・1」で評価して下さい。

15件の回答

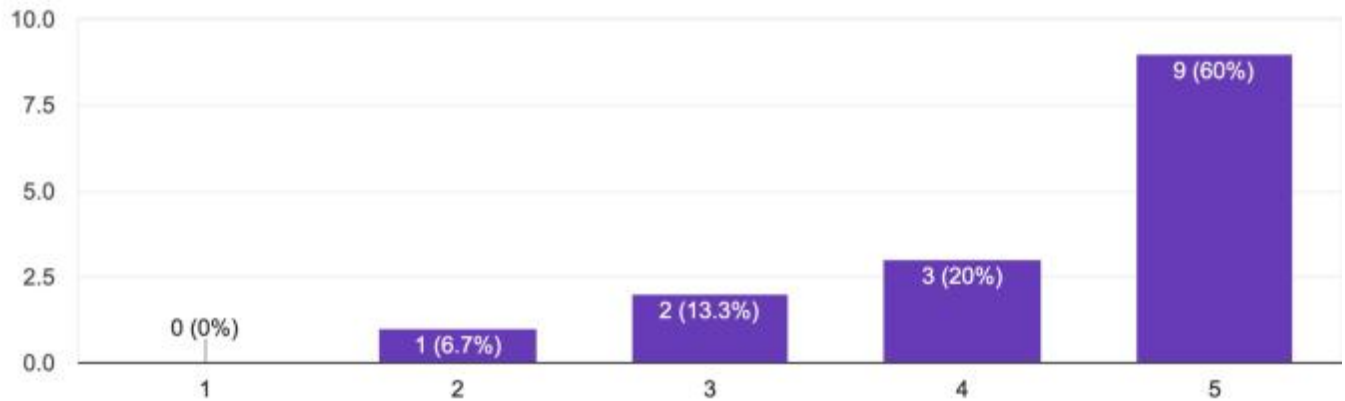


その理由や感想、フィードバックなどあればお聞かせ下さい。

- とても参考になりました。免外で不安な気持ちでいっぱいだったのですが今日の研修からこれからの授業を頑張ろうと思いました。
- 授業の実践に活用できそうな内容であった
- 今までの情報の技術は自分のような初心者向けの研修はあまり無く、obnizなど購入が難しいものの実習だったのであまり自分の授業に落とし込むことができていませんでした。ただ、今回の研修はすぐ明日の授業からでも活用でき、今まで苦手意識のあったプログラミングをしっかり生徒に教えられると思います。
- 実際に自身で動かしたかったが、Windowsのため動かなかった。仕組みは、なんとなくわかったので、良かった
- スクラッチなどの使い方、実践事例について情報を貰えたことがよかった。
- スクラッチの実践的な使い方や、アイデアを学ぶことができた
- 計測・制御で指導できる内容として素晴らしい。
- 動画などでアルディーノの作品を見たことはありましたが、実物を目にしたときはとても感動しました。実際に組み立ててみると難しさを感じましたが、周囲のサポートがあり助かりました。研修を終えた今後も、教材研究に取り組んでみたいと思います。
- アルディーノの経験がなかったため、今回体験することができてよかった。LEDの制御についてはマイクロビットでも経験があったので、超音波センサーや他のセンサーの制御も多く経験したかった。
- 今日は初級のプログラミングに参加しましたが、すぐにでも授業で生かせる場面が多くありました。本当にありがとうございます。
- 免外でプログラミングについて学ぶ機会を得られたからです。
- 今までは、マイクロビットしか使っていなかったです。
- しかしアルディーノを、初めて使い、モーターやサーボも、使えるし、積層電池をすぐに接続できるボードが、備え付けられており、汎用性が高いと思いました。

体験教室(教員研修)

きょうの研修成果を授業に活かそうですか? ...そう・・・5 ・授業に活かそうもない・・・1
15件の回答

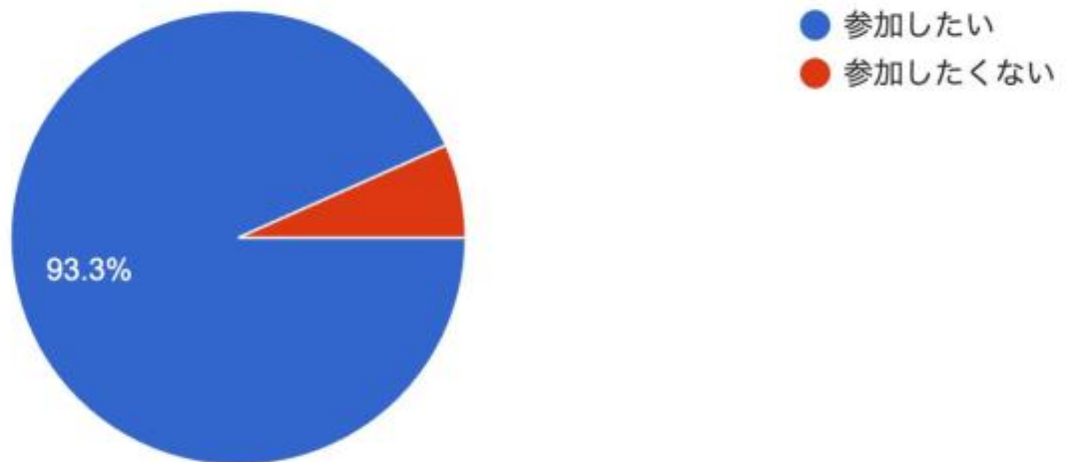


- 初級の講習を受けさせてもらったのですがスクラッチの色々なプログラミングを紹介して頂きとても参考になりました。ありがとうございます。
- 授業に活用できるため
- すぐに行えるスクラッチだからこそ授業に展開しやすいと思ったからです
- やりたい事はわかったが、そこまでどのように持っていくのか(知識・技能の習得)がイメージ出来なかったです。
- スクラッチの使い方はわかっていたが、どのように活用したらいいかわからなかったなので、少し理解できたと思う。
- 生徒に実践させるのは難しそうだと感じました。
- 一つ一つ丁寧に教えてくださったので、授業で試してみたい
- 計測・制御で指導できる内容として素晴らしい。
- これからの技術に、必要だと思ったからです。
- 授業にどう落とし込めるか検討中
- 情報の授業が難しく悩んでいましたが、はじめの一步が踏み出せたと感じました。スクラッチでの勉強も今後行いながら取り組んで行きたいです
- 有効なプログラミングアプリを教えて頂けたので、楽しく取り組めるように今後の授業に備えたいです。
- 頑張れば、授業にいかせそうな気がします。
- まずは自分が普通に使えるよう勉強が必要です
- 生徒も取り組みやすいものだと感じました。

体験教室(教員研修)

このような研修を次回以降も参加したいですか

15件の回答



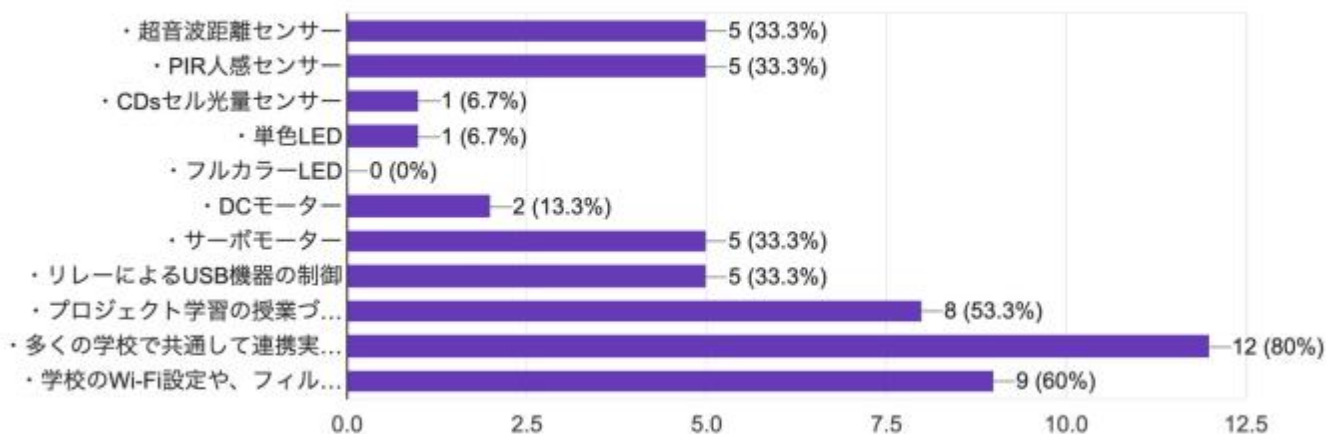
その理由をご記入下さい。

- もっといっぱい勉強したいです。
- いろいろ授業に活用するため
- 初心者向けの研修をまた受けて今後活かしたい
- 学校に1人しかいない教科なので、情報交換をしたい
- 専門外なので、少しでも知識をつけて生徒に還元したい。
- 自身の学びのため
- わかりやすく、聞きやすく、悩みを解決する事が出来たから
- 素晴らしかった。
- 自分自身の勉強にもなり、研修で得た知識を還元できるよう、子供たちへ技術は楽しいと思える授業をしたいから。
- 自分の経験の幅を広げ、授業で生徒へ還元したい。
- 何もかも吸収出来る場面が多くあるので是非研修に参加したいと思います
- まだまだ力不足だと思うからです。
- 自分が初めて知る内容だからです。
- 何回受けてでも学んでいきます
- なかなか教えてもらう機会がないので。

体験教室(教員研修)

・今後の研修で取り扱って欲しいもの、・授業実践...持っているもの、を全て選択してください。

15件の回答



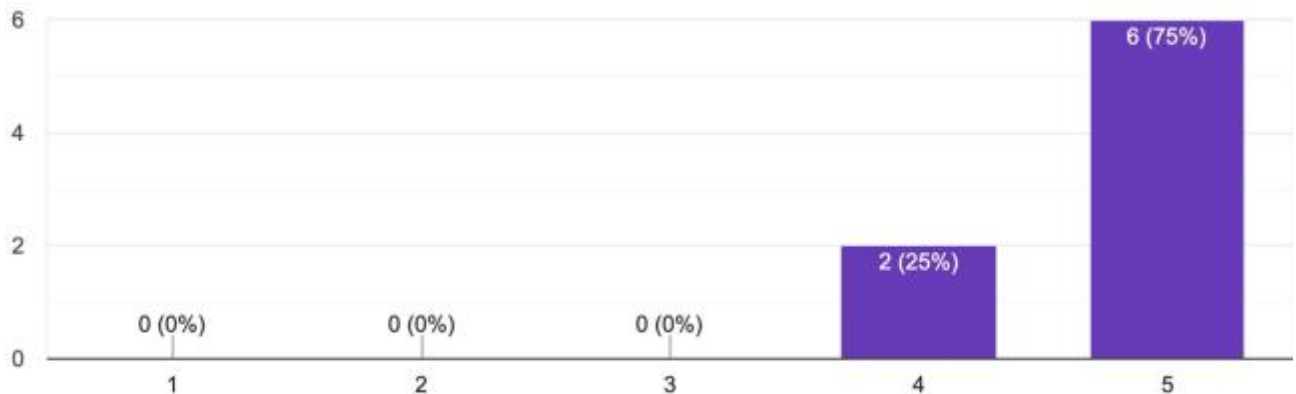
今後の研修に対する要望など(自由記入)

- これからも色々な、参考事例を教えてください。
- いろいろ準備していただきありがとうございました
- プログラミングなど、生徒の作成物などの評価基準など、評価の仕方などを学びたいです
- 中学校技術3年間を通して、1つの作品を作るなどの例があるのか知りたいです。
- 例) 棚作成(1年)、棚に設置できるライト作製(2年)、ライトの明るさ調節、人感センサ(3年)
- すぐに使用できる指導案やスライドなどの提供があるとありがたい。
- ネット環境は準備してほしいです。
- アカウント登録などが必要なものは避けたかったです。
- これから情報教育が大きくなっていく中でたくさんの先生が課題や悩みがあるのを実感して自分自身もそう考えていたのをクリアにすることが出来ましたまた参加しようと思いません！
- 機器のトラブルがなければ最高です。思いが共有できたことはよかったです。
- 自分なりに教材研究をしてはいるのですが、アルディーノやマイクロビットなど、どのような事ができるのか分からない部分がある為、教わりたいの方が大きい。色々な勉強会をしてほしい。
- ありがとうございました！
- またの研修を楽しみにしています
- 貴重な機会をありがとうございました。
- とても面白かったです。
- 教師用に動画等あれば自分で勉強できるかもしれません。
- マイクロビットの説明書等は英語で書かれているので分かりませんでした 😞
- アルディーノみたいな新しいものの使い方など教えてもらいたいです。

シンポジウム(基調講演について)

今回の題材設定について、5点満点で何点ですか？

8件の回答



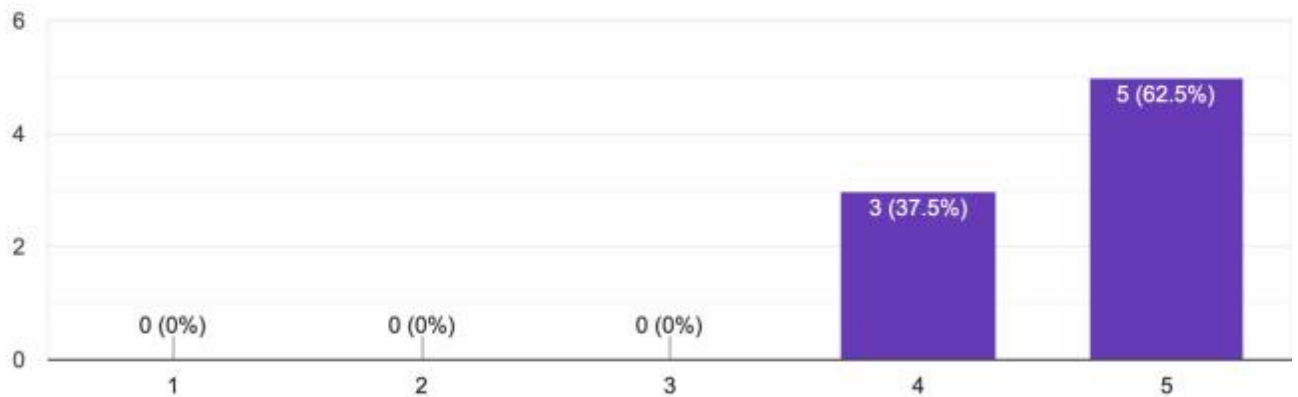
その理由や感想、フィードバックなどあればお聞かせ下さい。

- 僕にとっては、新しい情報や考え方を知ることができた。オモシロイを追求することに共感できた。
- 今後の技術教育の方向性が分かって良かったです
- 内容がとても良かっただけに、もう少し時間を取ってもいいと思いました(例:90分×2)
- とても聴き応えのある内容でした。
- 文科省・現場・民間・大学の声が聞けたこと
- 原状においても、授業を高めていくヒントがたくさんあったこと
- 中学1年生の子どもを持つ親の立場として、日本のみならず世界規模で社会構造が大きく変化する教育変革の時代において、子どもにどのような情報を届け、どのような取り組みを促すべきか、その方向性を明確にすることができました。
- これからの方向性について確認することができた

シンポジウム(パネルディスカッション)

パネルディスカッションの「内容」について、5点満点で何点ですか？

8件の回答



その理由や感想、フィードバックなどあればお聞かせ下さい。

- 登壇者への感想などは良い内容を説明してくれて色々の良い箇所がありました。
- 私の勉強不足で登壇者の説明している用語が分からない所がたくさんあった。
- やり方の説明が長かったかも。話を聞きながらなので、入力していたら話が進み、もったいな
いと思える講演の内容だったので、質問が少なかったのは仕方が無いと思います。プレゼン
のデータももらえてよかった。講演の動画もぜひ視聴したいので教えてほしいです。
- 有名人を3人も集めたイベント良かったです。
- 次期学習指導要領の詰めている内容を詳しく聞いて勉強になった。
- 信州大学の教職課程にある「STEAM教育概論」にとっても興味を持った。
- 時間の制約もある中で、多岐にわたる質問への回答、本当にありがとうございます。
- AIを用いて、会場の意見や質問をまとめて、図示すること。
- ティンカリング(試行錯誤)の価値とそれを伝えるテイクテックの動画
- 新指導要領作成の論点、枠組、要点 今後につけさせたい力 例として「アスファルトのヒビか
ら見える課題」
- データ活用において情報の力を発揮する。ものづくりにおいても同様であること
- 互いに連携するためにも、つながり合う手段を持つこと。
- 官僚や大学が主導する従来型の教育改革にとどまらず、社会に出て間もない5年未満の若手
社会人や、現行の教育に課題意識を持つ現役学生といった「当事者世代」の声を積極的に取
り入れた意見を国に提言してほしい。
- 事前に質問を受け付けていたのでパネルディスカッションがスムーズで良かったです。

シンポジウムへの要望

次回のシンポジウムにリクエストしたいトークの内容や紹介してほしい事例、開催方法、開催時期について要望をお聞かせください。

- 開催方法として、Web(zoom/meet)なども検討してほしい。
- また、開催場所もできるだけ駐車場がたくさんある場所で開催してほしい
- 今回の話をもう少しゆっくと聞けるといいかも。
- 今後ともよろしく願います
- 情報に関連する学びの中学校と高校の接続について。⇒高校では、中学校でどこまで情報を学んでいるか分かっていない教員が圧倒的に多い。中学校までの学びを踏まえて、高校での情報教育はどうあるべきかを考えていきたい。
- Steam教育について、技術科関係者だけでなく、理系関係者も交えて話すとおもしろいかと思っています。
- すごい深い講演会だった。参加者が増えるといいな・・・
- 今回の内容を整理して、関連動画を紹介することに価値があると思った。
- 今後行われるイベントなどの運営に、ボランティアとして息子が参加したいと希望していました。
- 高校のこれからの動向についても情報を知りたい